

藤森成吉 （成吉） 小説家、劇作家。明治二十五年八月、二十八日長崎縣生乳、昭和五十一年五月二十八日歿（八二—一九七三）。號山心子。大正五年東京帝國大學文科大學獨文科卒。第六高等學校講師一年のりち文筆生活。昭和二年全日本無産者藝術聯盟（略稱ナツポ）初代委員長。五年渡歐、七年歸國後執筆せられ轉向。戰後、二十四年日本共產黨公入黨。

著書「波」（大正二年六月）二十五日自刊、中興館書店）、「新し小地」

（大正八年十月十五日新潮社）、「研究室」（大正九年一月十九日

聚英閣）、「若き日の情女」（大正九年七月）二十三日、再刊、十二年

六月二十八日新潮社、昭和十三年四月六日「新潮文庫」、「煩悩」

（大正十年一月十日新潮社）、「妹の結婚」（大正十年九月十五日叢

文閣）、「煉獄」（大正十年十一月十五日新潮社）、「末甚」（大正十

一年二月）二十日金屋堂、「金屋堂名作叢書」）、「善先生」（大正十

二年六月）十日新潮社「中篇小説叢書」、「東京へ」（大正十一年八

月）二十日改造社）、「鳩を放り」（大正十二年四月）二十日玄文社）、

「暖か手紙」（大正十二年六月八日新潮社「新進作家叢書」）、「判

逆藝術家」（大正十二年九月）二十日聚英閣）、「少年の頭・中巻」（合

著、小野誠情編、大正十四年五月）二十日第一出版協會「少年少女文學

叢書」）、「惱み笑ふ」、エッセイ小説集」（大正十五年二月十八日改

造社）、「農民小説集」（加藤武雄 （木村） 編、大正十五年六月）二十日新

潮社）、「藤氏左衛門（附・藏住）」（大正十五年七月）二十五日新潮

社）、「何が彼女をささぐりさせたか？」（昭和二年四月）二十三日、普及

版、五年四月二十日改造社）、「新選（一）戦陣戎装束の戦へ」（合著、昭





年十一月、千石洋書房「新文藝論全集」)、隨筆集「愛と關心」(昭  
和十六年一月、千石竹村書房)、「愛國浪曲角作集」(合著・終國文  
藝の會編、昭和十六年二月、千石大和書店)、「花あゝ路」(昭和十七  
年九月、千石萬里閣)、「経清」(昭和十七年十一月、千石新潮社)、  
「若き洋學者」(昭和十七年二月七日、千石新書院)、「頼山陽」(昭和  
十七年七月、千石至平堂「青少年日本文學」)、「秋晴れ」素人演  
劇脚本集(合著・池谷作太郎編、昭和十七年七月、千石日本文化  
中央聯盟「國民百覽叢書」)、「山のたの歌」(昭和十七年十一月、二  
千石油書房)、「山心」(昭和十八年二月、千石新潮社)、「大陽  
のこゝ前篇」(昭和十九年二月、千石新潮社)、「夢日記」(野村浩策  
氏)(昭和二十一年二月、千石生活社「日本叢書」)、「夢と眞實」  
(第一卷「若き日の惱み」(昭和二十一年九月、千石日  
婚」(二十一年一月、千石北光書房)、「何れ彼女とせよとせりか」(昭  
和二十一年九月、千石大阪・弘文社「東曲叢書」)、「戯曲」若き隊  
木山(昭和二十一年十月、千石愛知・高須書房)、「故郷を去るま  
の」(昭和二十一年六月、千石長野・明白書房)、「あゝがれ」(昭  
和二十一年七月、千石山梨・新星出版部)、「垂葉亭」四迷著「其面影」  
(解説、昭和二十一年十一月、千石有朋書房)、「犧牲」(昭和二十  
一年十一月、千石花月社)、「藤森成吉全集・第一部」(「歴史  
の河」第一卷「大陽の子後篇」)(昭和二十二年二月、千石小峰書  
店)、「藤森成吉集」(昭和二十五年四月、千石北條書店「日本各作  
戯曲全集」)、「人間誕生」(昭和二十五年五月、千石北條書店)、  
「若き日の惱み」(昭和二十六年二月、千石角川書店「角川文庫」)、

可渡邊舞山全二册(上卷・昭和二十六年四月十日、下卷・二十日改  
造刊)、可新選現代戯曲・第一卷(合著、昭和二十七年九月十一日  
河出書房)、可悲しき愛全二册(上卷、下卷、昭和三十年八月十日  
角川書店、角川小説新書)、可河辺彼女まぼろし(昭和二  
十二年八月二十六日岩波書店、岩波文庫)、可悲歌全二册(上、  
下、昭和二十五年八月二十一日三三書房、三三新書)、可独活の女  
(昭和四十八年八月二十日未来社)、三本  
詩集可悲しき詩曼陀羅(昭和五  
十二年十一月二十五日起源社)等。

又獻、山田国公著、可郭公王書高の時付一藤原及吉注注の、又受、可建設心  
よむ(昭和五十年十一月五日甲陽書房)等。